

第三者評価結果

事業所名：ポピンズナーサリースクール綱島

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・ポピンズナーサリースクールの理念、保育方針、目標に基づき本社にて全体的な計画が策定されており、園においては前年度の反省を踏まえ、子どもの状況を考慮し年間計画、月案を作成し週案につなげている。それぞれの指導計画は、日、月、期ごとに評価と反省を行い、見直しを行っている。指導計画はすべてポピンズシステムで作成されており、ファイルとともに全職員がその内容を確認することができる仕組みである。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・保育室内は子どもたちが自由に手に取り、片付けもしやすいように年齢に応じた玩具や絵本を設定し、幼児クラスでは廃材コーナーを設けて子どもが製作活動を自由に楽しめるようにしている。安心スペースとして部屋の角に小さなスペースを作り、子どもが落ち着いて過ごせるよう配慮をしている。</p> <p>・1歳児と2歳児は食事と遊びのスペースを分けて安全に活動しやすい環境設定であり、幼児クラスは3歳児用と、4、5歳児用とにスペースを分けて使用している。活動内容によってホールのように広く設定し、異年齢の合同保育を行う場合もある。保育室内は清潔が保たれており、職員と業者による定期的な清掃、0歳児室は毎日の玩具消毒などを行っている。各クラスには体温、健康状態、日中のけがなどの特記事項を記録する指導表を準備し、子どもたちの安全と健康を共有できるようにしている。</p>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・新学期のスタート時には、各クラスにおいて一人ひとりの子どもの姿とクラスとしての状況の把握に努めており、日々の対応のなか子どもの気持ちを受け止めながら保育にあたっている。毎週のミーティングでは、全体でクラスの状況を把握できるよう情報共有を行い、担任以外でも対応できるように取り組んでいる。乳児は毎月の成長記録、幼児は4期ごとの成長記録によって子どもの成長や配慮、課題などを把握できるようにしている。</p> <p>・言葉づかいに特に注意を払い、職員間、子どもたちに対しても丁寧な言葉を使うよう心がけており、保護者からも評価されている。また、子ども同士の言葉づかいについても注意し、間違った言葉づかいをした際は正しい言葉選びを指導している。1階受付は保育室とつながっている作りであるため、施設長と看護師は受付から保育の様子を確認することができる環境となっている。</p>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・子どもたちが基本的な生活習慣を身につけられるよう、日々の活動を通じて援助をしている。幼児クラスの子どもたちは金曜日に玩具の片付けや絵本棚の整理、床の水拭きなどを行い、清潔で気持ちの良い環境で新しい週を迎えられるよう促している。3歳児クラスからは自分の持ち物について意識し、道具箱の中のクレヨンや粘土などの使い方と保管ができるようにしている。また、幼児に対しては背もたれのない椅子を使用し、正しい椅子の持ち方や座り方を指導している。</p> <p>・乳児クラスでは興味を示した物や事柄に対してその都度声をかけながら、生活の中で着替えや片付けなどの習慣を身につけられるよう援助している。また、2歳児は食後の着替えや手洗いを保育士が手助けしながら行い、トイレトレーニングでは子どもの成果を共に喜び、肯定的な支援を心がけている。</p>	

<p>【A5】 A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児クラスでは自主性を持って活動に取り組めるよう、様々な場面で子どもたちの意見を大切に活動に取り入れるようにしている。発表会や運動会などの行事では、子どもたちが自分たちの演目を選ぶことができるように話し合いの場を設け、積極的に意見を出し合い、協力して活動を進めることができるようにしている。運動会のダンスでは、年長の子どもたちが応援団になり、年中の子どもたちを応援するなど、子どもの意見からの取り組みによって、年齢を超えた連携も促進している。 ・全クラスでダンスや音楽遊び、製作活動を取り入れ、各担任は子どもたちの反応や興味に基づいて活動を選択している。また、園では毎月の取り組みを保護者に伝えるために掲示を活用しており、子どもたちも自分たちの作品や活動を振り返ることができるよう、見える場所に掲示している。 ・園外活動にも力を入れており、天候が許す限り、公園や土手へ出かけている。自然との触れ合いを大切にし、自然物を使った遊びや栽培活動を通して、季節の変化を体感する機会を提供している。園庭では、トマトやカボチャ、ひまわりなどの野菜や植物を育て、収穫物は給食にも活用し食育につなげている。 	
<p>【A6】 A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入園児には「慣らし保育」を行っており、3週間の期間を設け1時間から開始し、徐々に保育時間を伸ばしていくことで、子どもたちが園生活に慣れるための時間を十分に確保している。保護者と密接に相談しながら進めており、受け入れ時間の調整にも配慮し、保護者と子どもの双方にとってストレスのないような環境作りに努めている。また、離乳食の進行に関する相談に応じるなど、栄養士や看護師も関わり、個々の子どもと家庭の状況に合わせた、きめ細やかな対応を心がけている。 ・保育室は、子どもたちが安全に過ごせるよう点検を行い、子どもの発達に合わせて玩具や環境設定の変更を行っている。離乳食の進行状況に応じて、食事中は集中できるよう仕切りを設けている。朝と夕方には0歳児と1歳児が合同で過ごす時間を設け、絵本の読み聞かせなど共通の活動を行い、年齢の異なる子どもたち同士の交流を促している。 	
<p>【A7】 A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳児と2歳児は食事時間を一緒に過ごし、統一された流れ(「いただきます」の合図で食事を開始し、食べ終わったら手洗いや着替え、トイレを済ませてからお昼寝に入る)に沿って生活している。年齢ごとに適切な活動を行っており、子ども同士の関わりにおいては、トラブルが生じた際には言葉のやりとりを通じて解決を図り、感情の理解を深めるために喜怒哀楽の表情を共に確認することで、互いの気持ちを理解するきっかけを作るようにしている。 ・遊びにおいては、手作りのおもちゃを取り入れ、子どもたちが自ら作ったり遊んだりすることで、創造力を育むことができるようにしている。2歳児は、机上遊びやままごと、お店屋さんごっこなど、さまざまな活動から選んで遊び、豊かな想像力と協調性を育てながら日々の保育を充実させている。 ・乳児クラスでは、日々の保育においてポップズメモリーを活用して、トイレや食事量などの細かい記録とコメントを行い、さらに口頭でのエピソードなども保護者に伝えている。 	
<p>【A8】 A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児クラスの子どもたちは、異年齢での多くの共同活動を通じて互いに学び合い、成長できるように援助している。年長児はリーダーシップを発揮し、年少児を手を取ってサポートするなど、年下の子どもたちとの関わりを通じて責任感や思いやりを育てている。年度後半になると、子ども同士の交流が増え、異年齢間での関係が深まっている姿が報告されている。 ・クラスの日常や特別な出来事は一斉送信で迅速に保護者に伝えられ、健康やその他の心配事については、専用のフォームに記入することで具体的な情報交換が行われている。子ども同士のトラブルに対しては、自分たちで解決できるように見守り、必要に応じて仲立ちし互いの気持ちを理解し合えるよう援助している。 ・年長児クラスでは年度後半は昼寝をなくし、より集中して学習に取り組む時間が設けられている。野菜の栽培を始め、読み書き、時計、数字パズル、ひらがな表を使った学習や絵日記など、小学校入学に向けた準備を充実させている。 	
<p>【A9】 A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、保護者や療育センターなど関係機関との連携に努め、また、園内でも全体での共有を行い対応できるように努めている。保護者との情報共有は、園の様子や療育センター(リハセンター)からのアドバイスを含め、定期的に行われており、家庭と園での支援が一貫性を持ち、子どもの成長を効果的に支援する体制が整っている。 ・クラス保育だけでなく合同保育においても子どもの具体的な姿や対応を伝えながら連携を取ることができており、子ども一人ひとりに対する配慮が行き届いていることがうかがえる。また、保育士同士での協議や本社・外部での研修を通じた知識と技術の向上を図る体制がある。 	

<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a</p>
<p><コメント></p> <p>・延長保育では、子どもたちが安心して楽しく過ごせるような配慮がなされており、夕食や補食の提供も希望に応じて行われている。人数が少なくなる夕方の時間帯は、子どもたちにとって特別な時間として捉えられ、好きな遊びや保育士とのかかわりを通じて、充実した時間となるよう援助している。また、異なる部屋での遊びも積極的に取り入れられており、日中の活動に続いて、変化を楽しむ機会作りを行っている。</p> <p>・担任から遅番担当者への情報伝達は視診表による書面と口頭での確認を通じて適切に行われ、一日を通した子どもの様子やその日の注意点などがスムーズに共有されている。子どもたちが健やかに成長するためには、活動と休息のバランスが重要であり、その点も十分に考慮されていることがうかがえる。</p>	
<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	<p>a</p>
<p><コメント></p> <p>・地域の小学校との交流会を通じて、小学校での生活について学ぶ機会を持ち、小学校生活への移行をスムーズに進めるよう配慮されている。1年生の案内によって小学校での活動や教室での過ごし方を体験することで、子どもたちが実際の小学校の雰囲気に触れ、不安を軽減する機会につながっている。また、年長児同士の交流会も設けられ、地域の公園での遊びを通じて、小学校入学後にも続く友だち関係が築けるように援助している。これらの交流活動は、子どもたちが小学校生活にスムーズに移行するための大切な一歩となり、保護者の安心にもつながっている。計画されている今後の交流活動にも、子どもたちの成長や心の準備を考慮した配慮が期待される。</p>	
<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント></p> <p>・マニュアルに基づき、看護師を中心に子どもたちの健康状態の管理や怪我の対応が適切に行われている。また、保護者に対しても、状況の説明や協力のお願いが効果的に行われ、円滑なコミュニケーションが保たれている。看護師によって各クラスの状況は毎日確認され、感染症が発生した際には自治体に通報し、保育園内での対応を速やかに行っている。</p> <p>・日々の保育の中で年齢や発達に応じた健康教育を実施しており、歯磨きの指導や汚れが見える工夫をした手洗い指導なども取り入れている。さらに、SDGsの観点から命の大切さを伝える教育の実施や、水遊び前の着替えやプライベートゾーンについての教育も行っており、その内容は掲示や保護者への情報提供を通じて共有されている。</p>	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	<p>a</p>
<p><コメント></p> <p>・定期的な内科健診や歯科健診を実施し、嘱託医との連携により子どもの健康管理に取り組んでいる。健康診断前には、保健指導の一環として子どもたちに対し事前に練習を行うことで、安心して健診を受けられる環境を整えている。健診結果は当日中に保護者に共有しており、円滑な情報伝達が行われていることがうかがえる。保護者の不安を軽減するため、健診前に保護者の心配事などを聞き取り、それらを医師に伝えるという配慮も行われている。</p> <p>・ニュースレターを通じて健康に関する情報や流行感染症についての情報を保護者に定期的に提供しており、保護者と園が連携し、子どもたちの健康管理を効果的に行うことができるように努めている。職員は救命研修を受講しており、万が一の事態に備えて、適切な対応ができるように準備している。</p>	
<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント></p> <p>・アレルギー疾患については、ガイドラインに基づき除去食の対応を行っており、栄養士を中心に看護師、保育士が情報を共有し、適切な対応に努めている。定期的な病院受診の奨励や、生活管理表の提出を通じて保護者とのコミュニケーションを密にすることで、子ども一人ひとりの健康状態や保護者の意向を反映した個別対応が実現されており、アレルギー疾患を持つ子どもが安心して保育園生活を送れる環境が整備されている。</p>	

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a
<コメント> ・基本献立については2週間サイクルを採用しており、1週目の子どもたちの反応を見て、食材の切り方や子どもの意見を反映させながら献立を調整し、子どもたちが食事を楽しむことができるよう工夫している。好き嫌いに対しては無理強いすることはないが、一口だけでも挑戦するよう促すことで、食への意欲を持つことができるように援助している。また、離乳食に関しては、それぞれの月齢に合わせた対応を行い、食事調査票を活用して保護者と密に連携を取り、家庭での食事の様子を踏まえた上で、園での食事提供を行っている。食材や量についても家庭での様子を参考にしながら調整し、月齢だけでなく子ども一人ひとりの成長に合わせた食事の提供に取り組んでいる。栄養士は園での経験年数が長く、経験を活かしたきめ細かな対応が行われていることがうかがえる。	
【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<コメント> ・子どもたちの健康や発育に配慮しながら和食を中心にバランスの取れた食事を提供するとともに、日本の食文化にも親しむことができるよう工夫をしている。郷土料理や多文化料理を取り入れることで、様々な食文化にも触れる機会を提供し、料理の写真やわかりやすい説明を掲示して、食べ物に対する知識や興味を深めている。午後のおやつ時間も、日々の楽しみの一つとしており、お誕生日会でのカップケーキなども取り入れている。 ・行事などに合わせた食育活動を積極的に行っており、子どもたちが食に対する興味や理解を深められるような工夫がされている。節分ではきびだんご風のおにぎりを提供するなど、季節感を取り入れたメニューを採用している。また、栽培活動を通して、子どもたちが収穫した野菜を実際に食べる経験を通じて、食材がどのように育つのかを理解し、食への興味や感謝の気持ちを育む機会を提供している。 ・SDGsに関連して、お米の生産過程を学ぶなど、子どもたちに食の重要性や自然環境への理解を深めるための取り組みも行っている。乳児に対しては、感触遊びを取り入れ、食材に触れることで感覚を育む活動を行っており、食材の感触を通じて五感を刺激し、食に対する関心を自然に高めることができるよう配慮している。	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
<p>【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>・保護者とのコミュニケーションを重視し、日々の送迎時での会話、連絡帳、情報配信、掲示物など様々な形で情報交換を行うように努めている。年に2回の懇談会では、園の全体的な情報共有の後、各クラスで保護者間の話し合いも行える機会を設けており、保護者同士の交流と情報交換を促進している。また、面談は10月に希望者を対象に行い、その他の時期にも必要に応じて個別に対応している。面談では事前に質問や相談内容を提出してもらうことで、事前に内容を把握し適切な対応に努めている。保護者のニーズに応じた柔軟な対応を心がけており、記録を残すことで情報の共有と引き継ぎを効果的に実施できるようにしている。</p>	

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
<p>【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>・保護者からの相談は、面談時期以外でもいつでも応じる体制であり、相談内容に応じて担任だけでなく、栄養士や看護師など専門職からのアドバイスや施設長、主任の同席なども可能としている。</p> <p>・保護者の参観を希望者にはいつでも受け入れており、保護者が子どもの園での様子を直接見ることができる機会を提供している。参観では子どもの成長や園での生活、保育士との関わりなどを実際に見て感じることができ、家庭との信頼関係を深め、子どもへのより良い援助につながることを期待されている。</p>	

<p>【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>・子どもの安全と健康を最優先に考え、受け入れ時には視診を行い保護者に子どもの健康状態などを確認している。異常や気になる点がある場合は、施設長や主任へ報告、職員間で情報を共有し、必要であれば写真を撮って記録を残すなど、慎重な対応に努めている。</p> <p>・地域の関係機関との連携にも力を入れており、民生委員や区役所との協力体制を整え、子どもや保護者へのサポートを強化している。さらに、定期的にマニュアルに基づいた研修を受け、救命救急の知識や技術を習得し、緊急時にも適切な対応ができるよう努めている。</p>	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
<p>【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>・園では年間を通じて、保育の質の向上に努めており、具体的には年度末に各クラスで保育の振り返りを行い、その内容を会議で共有し、施設長がそれを総合的にまとめる体制としている。3月には園の評価を保護者に開示し、透明性を確保している。この振り返りと評価のプロセスは、保育の質を定期的に見直し、改善点を明確にし、次のステップへとつなげるための大切な機会となっている。加えて、ドキュメンテーションの作成や共有、外部研修への参加を通じて、職員の専門性の向上にも積極的に取り組んでいる。</p>	